

会 議 録

会 議 名	令和7年度第2回東松山市スポーツ推進審議会					
開 催 日 時	令和8年2月18日（水）			開 会	午後2時00分	
				閉 会	午後3時00分	
開 催 場 所	東松山市総合会館3階 302会議室					
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）第3期東松山市スポーツ推進計画（令和7年度）の進捗について （2）その他 4 その他 5 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	0人		
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	会 長	森 浩 寿	出席	委 員	奥 野 清	欠席
	委 員	河 野 喜 男	出席	委 員	長 澤 誠	出席
	委 員	木 阪 尚	出席	委 員	西 川 光 治	出席
	委 員	田 中 透	欠席	委 員	山 崎 秋 良	欠席
	委 員	鈴 木 正 弘	出席	委 員	梅 澤 行 子	出席
	委 員	七 五 三 和 孝	出席	委 員	戸 森 健 治	欠席
事 務 局	生涯学習部長 田嶋 靖洋			生涯学習部次長 田島 信子		
	スポーツ課長 大木 克彦			スポーツ課主任 高橋 沙織		
	スポーツ課ウォーキング推進室 岡村 拓磨			スポーツ課主事補 坂井 悠真		

子供の運動離れが議論されているが、運動の頻度が少ない人たちに効果的な仕掛けをいかにやっていくかが大事である。

(長澤委員)

小学校体育連盟の東松山支部長及び埼玉県体育連盟の理事を担当している。埼玉県の小中学生及び中学生の体力は全国的に見てトップクラスの成績を誇っている。しかしながら、「運動は好きだが、体育の授業は好きではない」という生徒の割合も高い状況である。また「体育の授業以外の時間に1週間でどれくらい運動をするか」という調査では、“1週間あたり30分未満”と答える生徒の割合と“1週間あたり2時間以上”と答える生徒の割合が高く、運動をする人とそうでない人の二極化が著しい状況である。そういった状況を踏まえると、休日に行っている事業の周知を積極的に行っていく必要があると考える。事業への参加が増えれば体育の授業以外で運動を行う人の割合も増えてくるはずだ。学校でも周知活動をできればよいと思う。

(事務局)

スポーツ課の事業については学校を通じて参加者の募集を行っている。昨年度までは紙でチラシ配付を行っていたが、今年度から学校から各家庭へのメール配信システムを通じた配付に変更した。それによる参加者減少は課題として受け止めている。

電子形式での配付となると、子供の目に届かずに終わってしまうことや視覚的に印象に残らないことも考えられる。

ポスターの作成等の一工夫を加え、可能であれば全校からの事業参加を目指したい。

(森会長)

小学校では家庭とのやり取りの形式の変化について、どういった印象を受けているか。

(長澤委員)

“一方通行”な印象を受けている。配信を行って終了という状況である。

(森会長)

学校からの教務的な配信を始め、様々な情報が配信されている。配信される量が多いと、印象に残らない情報も出てくる。

配信内容については、今後工夫をする必要が出てくると考える。

中学校では家庭との情報のやり取りをどういった形式で行っているのか。

(西川委員)

小学校と同様である。

(森会長)

「スポーツ発見教室」は開催場所によって、参加校に偏りが出ている印象。場合によっては私たちが各学校へ出向いて事業を実施するという案も考えられると思う。

(河野委員)

電子媒体での周知を行っている状況であると伺ったが、動画での周知は行っていないのか。

(事務局)

学校のメール配信システムは動画を添付できないため、本文に市公式ホームページのURLを添付し、そこから動画を見てもらうということは可能である。

今年度については子供向けではないが、駅伝大会は動画でのPRを行い、参加者の募集を行った。

発展版として子供向けの事業の動画での周知も可能であるとする。

(森会長)

30秒程度の動画での周知が非常に効果的だと思うが、事務負担が増えることが課題となる。

———推進項目2について———

(森会長)

ウォーキング事業については毎度“高齢化が著しい”という意見を聞く印象である。資料3の「東松山市ウォーキングセンター事業実績」を見ても参加者数が下がってきている。

(事務局)

ウォーキングセンター事業について、熱中症予防や参加者の高齢化の影響により、来年度から8月の開催を中止としたことを補足として報告する。

(森会長)

事業として追加されたものはあるか。

(事務局)

名称及び内容変更のみで追加事業はない。

(森会長)

日本スリーデーマーチで実施している「ウォーキングリーダーと歩こう」に今年度ボランティアとして参加した。

当該事業の評価について伺いたい。

(事務局)

47回大会で埼玉県職員にボランティアとして参加していただいたところ、好評であったため、翌年の48回大会ではボランティアの範囲を拡大し、大学生にも参加いただいた。参加者やボランティアから好評であり、次回大会以降も継続して事業を行っていききたい。

この事業の3日間の延べ参加者は51名（ボランティア参加者9名）であった。

(森会長)

参加者は「助かった」等の発言をしており、面白い事業だと感じた。

———推進項目3について———

(森会長)

情報発信の分野では既に取り組がされていると見受けられた。

体育施設の工事については資料に掲載されているものだけなのか、突発的な工事はなかったのか。

(事務局)

簡易的な修繕については資料に掲載していないが、随時実施している。

なお、来年度は大規模な工事は計画していない。

「東松山サッカー場北側フェンス更新工事」については、複数年に分けて計画的に更新工事を行う予定である。

(七五三委員)

東松山サッカー場の工事は、施設の芝養生期間である4～6月の間に実施してほしい。指定管理者との打合せの中で、工事期間について話題にならなかったのか疑問に思う。

(事務局)

予算の都合もあり、4月当初から工事を行うことは難しいが、次回の工事実施時は施設を利用する団体等の意見を聴取して工期を設定したい。

(森会長)

指標6「公共スポーツ施設を利用しての満足度」について、令和3年度

数値に比べて令和6年度数値がとて高いが、理由はあるのか。

(事務局)

令和3年度の数値は、第3期スポーツ推進計画策定時の調査結果であり、令和6年度市民意識調査とは別の調査である。(質問事項は同一)

また令和3年度は新型コロナウイルスの影響があり、体育施設が使えなかったことも影響していると考え。市民意識調査は無作為抽出のため、たまたま満足度が高い人が多かったということも考えられる。次回(令和8年度)の調査結果を見て状況の分析を行っていききたい。

(森会長)

頻繁に施設を使っている人はあまり良い評価をしないのではないかと考える。他自治体のアンケート結果等を見ると、施設の全面リニューアルや空調設備の設置等があった後は数値が高くなる傾向にある。

(2)「その他」

(七五三委員)

中学校の部活動改革について市教育委員会はどういった見解か。

(事務局)

部活動の地域展開については、学校教育課を担当課として検討協議会が開かれており、スポーツ課職員も会議に出席している。なお、協議会の会長は森会長が担当している。

(森会長)

国の方針としては土日の部活動指導を地域クラブや少年団の指導者又は部活動指導員にお願いする計画である。

東松山市は部活動という形は残したまま、土日は外部の指導者、平日は学校の先生が指導を担当する形式で現在動いている。国は令和8年度からの6年間で「改革実行期間」と位置付け、土日の活動のほかに平日の活動についても検討を進める方針を打ち出している。

政令指定都市など大都市の一部では、部活動を学校活動と完全に切り離すと決定した自治体もある。

一方で、改革が進んでいない自治体ももちろん存在する。

なお、令和7年度の国家補正予算において、「部活動地域展開」の分野に向けた予算を計上していた。

今後、教員の働き方改革の進行状況に合わせて、当該分野に向けた予算

が確保されるだろう。

(七五三委員)

基本的に土日のみ地域クラブ等に展開するという予定であるという認識でよいか。

(森会長)

その通りである。

なお、土日のうちどちらか1日を休みにするというガイドラインを国が設けたため、その内容を遵守した上で運用がなされる。

先行事例として、平日と土日の指導方針の違いにより、トラブルに発展するケースが存在しているため、先生とその他の指導員との間で十分な協議が必要とされる。

(河野委員)

スポーツ庁は組織として関係があるのか。

(森会長)

スポーツ庁・文化庁が部活動の地域展開に関わっており、その2庁が連名でガイドラインを発表している。しかしながら、吹奏楽部等の文化系部活動は地域展開が難しい状況である。

(西川委員)

楽器運搬の問題が発生することも一因として考えられる。

(森会長)

楽器運搬等の問題のほかに、学校ごとにコンクールや大会での課題曲があり、他校と合同で部活動を行うのが、難しいという話もある。

今後、部活動の地域展開が進展していくと、本審議会内でも議題にしなければならない。

「部活動をどうするか」だけでなく、「子供たちをどう育てるか」という話にもなり、授業と課外活動で成長するこども達の片輪が無くなると考えると、学校以外の場所でどれだけ協力できるかが重要になってくる。

市内の様々な資源を活かして協力していく必要がある。

個人的には大学生を派遣したいが、卒業等によって指導員が異なってしまうという問題も発生する。

北海道では大学の運動部で部活動指導を担うという事例がある。練習メニューが部内で共有され、部員が交代で指導を担当する。非常に面白い取組だと思う。

小・中学生が行っているスポーツの種類はとても限定的で、競技人数の

<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	<p>ベスト 5 はここ数十年同じ種目である。その他の多種多様な競技を体験してもらおう体験会があったら良いと思う。</p> <p>スポーツ協会や少年団から何かアイデアはあるか。</p> <p>(七五三委員)</p> <p>現在、試験的ではあるが、市内某少年団と某中学校サッカー部が協力し、土日のうち、顧問の先生が出席できない日を少年団で指導するという取組を行っている。</p> <p>少年団指導者の中には大学生のスタッフもいるが、無報酬で指導を行ってもらっている。</p> <p>部活動指導員として報酬が発生することに加え、東松山市として改革の方針が提示されれば、部活動を指導してみようという人も出てくると思う。</p> <p>市としての方針を早めに出してもらい、各団体への投げかけができれば種目によっては、協力する団体も出てくると思う。</p> <p>(森会長)</p> <p>中学校体育連盟との調整も必要で、試合の在り方を変更していかなければ地域展開も難しい。</p> <p>また、部活動ごとに指導員の有無の差が発生し、活動に影響することも考えられる。地域全体の協力を得る必要がある。</p> <p>(森会長)</p> <p>以上で議論を終了としたい。</p> <p>—事務局から任期に関する事務連絡</p> <p>—田嶋部長より閉会の言葉</p>
--------------------------	--

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和 8 年 3 月 1 3 日

署名委員 長澤 誠

署名委員 西川 光治